

第 30 回 精神科作業療法集談会 (オンライン開催) のご案内

期 日 2023 年 6 月 3 日 (土)

場 所 Zoom にて開催 (ミーティング ID などは申込者にメールでお送りします)

参加定員 約 30 名 (定員にて締め切ります)

参加費 1,000 円 (案内郵送料、申込サイト手数料等の会運営費として)

懇親会 6 月 3 日のセッション後, Zoom にて開催

懇親会費 0 円 ※飲み物・おつまみ等はご自分でご用意いただき PC 前に集合。

参加申込

- ・ 下記, 参加申込みフォームからお申し込みください。
- ・ 参加者が定員になり次第締め切りますので, 出来るだけお早めにお申し込み下さい。
(締切り: 5 月 15 日 それ以降にお申し込み頂く際は, 問合せ先までご連絡ください)
- ・ 締切り後にキャンセルいただいた場合は上記の参加費の返金はできかねます
(欠席の場合は, 他の方の代理参加でも結構です)

参加方法について

- ・ お申し込み後に, 事務局より入室用 zoom ID をメールにてお送りいたします。
- ・ 当日, 各デバイス (PC, タブレット等) により入室しご参加下さい。
「メールが届かない」「入室できない」などございましたら,
お問い合わせ先メールアドレスまでご連絡下さい。

申込方法& 第 30 回精神科作業療法集談会

支払い方法 参加申込みサイト: Peatix (ピーティックス)

サイト URL: <https://peatix.com/event/3536310>

または右の 参加申込み QR コードを読み込んでください。



参加申込み QR コード

問合せ先 精神科作業療法集談会メールアドレス: from1994syudankai@gmail.com

世話人 水野高昌 (帝京平成大学, 代表世話人), 奥原孝幸 (神奈川県立保健福祉大学)
加藤祐 (就労移行支援事業所 NEXT STAGE), 小亀晶子 (訪問看護ステーションポルタ),
鈴木一広 (生活訓練事業所さんすてっぷ)

スケジュール

6 月 3 日 (土)	
13:00~13:20	Zoom 開く
13:20~13:30	開会. 事務連絡
13:30~15:00	セッション 1
15:30~17:00	セッション 2. 中締め
17:30~夜中	Zoom 懇親会

<話題提供の要旨>

【セッション1:「神奈川精神医療人権センター等での活動から作業療法を観る」】

話題提供者: 奥原孝幸(神奈川県立保健福祉大学, 世話人)

この精神科作業療法集談会は、精神科作業療法をメインにその周辺事項に関して議論してきた。その話題も地域生活に時代が移行する中でも、常にこの精神科作業療法にこだわって考えてきた(特に私は)。

そんな流れの中で、昨年話題提供時には、精神科作業療法という治療法にこだわり過ぎず、作業療法士という立場から精神科作業療法を見つめる方が楽であると話した。作業療法は作業療法士だけが実施するのではなく、看護やPSWが実施してもよく、作業療法士が理学療法やケースワーク業務を実施してもよく、専門職名とその冠する治療法は常にイコールではなく、また作業療法からみつめる作業と生活という視点からみつめる作業とは異なると考えています。

今回は作業療法士である私が関わっている神奈川精神医療人権センターを中心に、ピアたちと一緒に活動している地域でのその活動内容をお伝えし、作業療法士であることの活動を作業療法の作業と照らし合わせながら作業療法を考えてみたいと思います。

【セッション2:「対象者との関わり方について～臨床でのダイアログ～」】

話題提供者: 小亀 晶子(訪問看護ステーションポルタ, 世話人)

近年ダイアログや対話という言葉をよく耳にするようになりました。オープンダイアログも日本で紹介され作業療法士としてはお薬を使わないということに強く興味を感じています。

リハビリは対象者との協業で行われると言われますが、対象者と私や他職種との間で目的や優先順位が異なり実際は落としどころが難しいと感じることがあります。また対象者と目標やプログラムを一緒に作っても効果が伴わず、よく考えると対象の方の意に沿っていないことが多くあり協業するというのは難しいと悩んでいました。そんな時に「対話を使ったら」とアドバイスをもらったり、家族心理教育の勉強会でオープンダイアログの一部を体験したり、WRAP では対話を実感しました。私にとって対話は心地いいものでしたので、臨床に取り入れてみました。

それまで私の行っていた疾病教育は押しつけがましい所もありプログラムの参加者が減っていましたが、対話を用いることで「言いたいことを言う場」になったり、面接や activity を用いた作業療法では対象の方が自分で目標やプログラムを考えるようになりました。

今回は私の臨床の場面を紹介しますが、みなさんで日頃の関わりや対話について話せたらと思っています。

精神科作業療法集談会について

本会は作業療法士の有志による研究会です。会員制をとらず、毎回の集談会ごとに参加者を募る形で進めています。

1994年の秋田県での作業療法学会で第1回目の会合を持ちました。作業療法士である私たち自身が、『精神科作業療法や関連する精神医療の様々な事柄』について、相互に検討していく場を作りたいということが発足の主旨です。第2回目以降は毎年1回1泊2日で開催し、話題提供者を3~4名決め、各々の話題提供の内容に沿って、相互に検討を行う形をとっています。